12

志木市の認知症への取組を紹介します

認知症カフェ（オレンジカフェ）

認知症の人やそのご家族、専門家や地域の住民が集う場としてお互いに交流したり、情報交換する場所です。

高齢者あんしん相談センター等が中心となって定期的に開催しています。

認知症サポーター養成講座

志木市では、認知症について正しく理解し、認知症の方やそのご家族を温かく守る「応援者」となる認知症サポーターを養成し、地域での見守りの輪が広がるように取り組んでいます。

また、「大切な未来の支え手」である小・中学生を対象に、認知症を知ってもらうきっかけづくりとして認知症サポーター養成講座を実施しています。

認知症ＳＯＳ声かけ模擬訓練

認知症になっても安心して歩くことができる街づくりを目指し、認知症の方が道に迷われた場合を想定した訓練を行っています。

また、早期発見・保護に役立つ「見守りSOSステッカー」の交付を行い、支援を強化しています。

もの忘れ訪問相談事業（認知症初期集中支援チーム事業）

認知症またはその疑いがある方やご家族に対して、医療や福祉の専門職がチームとなり、ご家庭を訪問し、必要に応じたサポートを行います。具体的には、認知症に関する情報の提供や必要に応じて医療機関の受診や介護保険サービスなどの利用につながるための支援を行います。

実際の活動を紹介します

○その１　～独り暮らしのＡさんへの支援～

アパートに独り暮らしのＡさんは、認知症により、ゴミ出しや買い物が難しくなり、食事もままならず、自分では医療受診も介護サービスの利用もできませんでした。アパートの大家さんが様子を心配し、市に相談。支援チームが訪問し、Ａさんの認知機能の状態や生活状況などを確認し、専門医療機関への受診につなげることができました。現在は、後見人も付き、グループホームに入り、安心した生活を送ることができています。

○その２　～暴力的になったＢさんとご家族への支援～

Ｂさんのご家族から、「数か月前から、食事をしたことや日付がわからなくなり、すぐ怒鳴ったり、手を挙げてくるようになった」「家族はずっと我慢してきたが精神的につらい」と高齢者あんしん相談センターに相談がありました。状況を伺うと、Ｂさんは数年前から入浴や着替えをしなくなり、日中も寝ていることが多いとのことでした。家族が受診を促しても、もともと医者嫌いのＢさんは怒鳴って拒否していました。認知症の可能性が強いと判断し、支援チームが訪問しました。初回の訪問では、訪問者にも怒鳴っていたＢさんでしたが、次の訪問で、医師がゆっくりＢさんの話を聴いたところ、しだいに打ち解けていき、同時にご家族からも不安やつらさの話を伺うことができました。その後、訪問医療のサービスが入るようになり、Ｂさんの健康管理がなされ、暴言や暴力も落ち着きました。ご家族も支援が入ったことで相談しやすくなり、安心できるようになりました。

※イニシャルは仮称です
※個人の特定につながらないよう、内容を一部改変しています